

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0591200076		
法人名	有限会社 白岩の郷		
事業所名	グループホーム ひまわり		
所在地	秋田県仙北市角館町白岩新西野202-2		
自己評価作成日	平成30年12月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成31年1月15日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひまわりは、田園風景に囲まれた静かで自然豊かな環境の中にあり、四季折々の風景も楽しめる。近くには小学校や保育園があり、行事等の際には交流している。又、避難訓練や敬老会等の行事、運営推進会議には近隣の方々にも参加や協力を頂いている。他、認知症カフェを毎月開催し様々なイベントを提供して楽しんで頂いたり介護相談を通して、同じ地域に住む地域住民の一員として支え・支えられる関係を築くための取り組みを行っている。又、仙北市で今年度から認知症になっても安心して暮らせる地域作りを目指し包括支援センター直営の「認知症カフェ」を開催しており、他職種の協力も得たいとのことで、当ホームの管理者が担当として参加している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

会社が運営する3つの事業所それぞれが独自に運営推進会議のメンバーを選定できる事実が、いかに地域に開かれた事業所であるかを物語っており、会議への欠席者も実に少ない。オレンジカフェには、地域の多彩なゲストが協力してくれており、地域にオレンジカフェを広めたいとの管理者の熱い思いを感じる。困難な場合こそ、本人本位に検討することの大切さをいくつかの事例をとおして紹介してくれたが、対応に専門性の高さを感じた。天候を把握しては、出来る限り散歩するよう心掛けている。芸能フェスティバル、わらび座劇場等々毎月外出を楽しめるよう配慮しており、家族から「よく遠方へ連れ出してくれ、楽しみを作ってくれています。」と好評である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を玄関に掲示して確認しており、又、いつも目に付き易いように職員ロッカーや介護記録ファイルの裏表紙等にも貼っており理念の共有や浸透を図って実践に繋げている。又、より理念を大切に身近に感じて実践して貰うために分かりやすい言葉で共有する取り組みを行っている。	異動等によるスタッフの入れ替わりにより、理念の再共有とその実践に向け、玄関への掲示はもちろんのこと、毎月の会議での確認、新任研修時の説明、ロッカールームへの掲示、介護記録ファイルや業務日誌へ綴じ込みによる共有を図っている。理念浸透の一環として、玄関に掲示された理念はあえてスタッフ手書きを採用している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	避難訓練や敬老会、オレンジカフェ、運営推進会議に参加して頂いたり、野菜や花を頂くこともあり。利用者との散歩や、洗濯物を干す、ゴミ捨ての際等常に挨拶を心掛けてコミュニケーションを図っており、近所の方が「雨が降ってきた」等教えに来て下さる。	保育所の発表会や小学校の芸能発表会に出かけたり、小学生がハンドベルをホームで演奏している。ホーム内の地域交流センターを会場に、認知症の患者や家族、地域住民が集まり、情報交換したり、おしゃべりを楽しんだりする場であるオレンジカフェを毎月開催しており、地域の多様な専門家を招いての講話の提供の幅の広さに驚かされる。学校や保育所、薬剤師、神主、市議会議員、地区長、農家等々との交流を媒体に、白岩地区の多くの住民に支えられ、地域のホームとして住民を支え、正に地域に密着した事業所と云える。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	行政と協働で行っている「認知症何でも相談所」の設置、又、毎月の「認知症カフェ」の開催を通して認知症や介護保険、薬等に関するミニ講話を開く等の取り組みを行っている。又、包括支援センター直営の認知症カフェの担当として依頼を受け管理者が貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用状況、行事や活動報告、研修参加報告の他、毎回テーマを設けてその内容報告を行っている。今年度からは身体拘束適正化についての会議・研修報告も毎回行うようにしている。出席者から出された意見は前向きに捉えて検討し、実戦可能な事は実践している。	道路向かいに隣接する2ユニットのグループホーム花みずきを加え計3つの事業所それぞれが独自に運営推進会議のメンバーを選定できる事実が、いかに地域に開かれた事業所であるかを物語っている。会議への欠席者も実に少ない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認知症なんでも相談所の報告や運営推進会議を通して情報交換や連携を図っている。又、今年度からは仙北市包括支援センター直営のオレンジカフェにも協力している関係で打ち合わせ等で各月で情報交換行っている。	オレンジカフェを広めて欲しいとの市の要請を受け、毎月開催しているカフェには、化粧品会社、消防、薬剤師、語り部、整骨院等々、地域の多彩なゲストが協力してくれている。地域との結びつきを重視した事業運営の一環としての「認知症なんでも相談所」として、自宅で認知症の高齢者を介護する方などの悩みや問題を解決するための手助けをする相談窓口を開設している。	地域の新たな福祉の担い手として期待されているオレンジカフェの活動の継続を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	4月の改訂に伴い身体拘束等の適正化について指針を見直し、例年通り社内研修の年間計画に組み込み研修を行い確認をしている。GHは基本的に拘束は行っていない施設だが、日常のケアの中でも気になることがあれば職員間で意見を出し合いながら取り組んでいる。	平成30年度の介護保険制度の改正に伴い、施設長、各管理者、各副管理者が出席する毎月の管理者会議に身体的拘束適正化検討委員会の機能を持たせている。委員会で日中のカーテン利用について取り上げられたとのこと。今まで身体拘束の事例は皆無である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修の年間計画に組み込み研修を行い確認をしている。日常のケアの中でも職員間で意見を出し合いながら不適切なケアの段階で発見出来るよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者については外部研修の参加にて学んでおり、相談があった際には説明出来るよう努めている。権利擁護についての社内研修は行っており、職員全員が参加できている訳ではないが、報告書は見て貰っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約の際は、契約書・重要事項説明書を契約者と照らし合わせながら説明し、理解や同意を得よう努めている。改定時も重要事項説明書の変更箇所を説明し、その上で理解や同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書の中には苦情や相談窓口を記載し、外部への相談が可能であることを伝えている。又、家族とは連絡帳を利用し毎月情報交換に努め、面会時や受診時にも情報の提供や相談にのる等の対応に心掛けている。	毎月の利用請求書に、入居者毎の生活の様子を担当介護員が詳細に手書きした連絡帳、病院受診記録、預り金明細が同封され、連絡帳には家族からの要望、苦情等困っていることなどを意見交換できるよう、家族の記入欄が設けられている。事業所主催の敬老会には、3事業所合同で送迎バスを利用し、家族と共に地域の温泉に向向しており、家族同士がコミュニケーションを図る機会を提供していることが窺える。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月月上旬ユニット毎の職員会議、及び管理者会議(施設長・各管理者が出席)を行って情報交換しており、職員の意見や現場の状況を知るための機会を設けている。	子育て中のスタッフからの勤務時間の調整に応じたり、担当介護員毎に事故防止やオムツ利用に関する意見を出し合い話し合ったりしている他、業務に対する様々なアイデアを情報交換できるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	役職手当や資格手当、賞与や研修制度等に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修やリーダー研修等の受講を事業所全体で支援している。「東北ブロック認知症グループホーム連合会2018INやまがた」では、中堅職員1名が事例発表を行い、又、講話や他施設の取り組みから新しい知識を吸収できた。社内研修についても年間計画に沿って行われており、なるべく多くの職員が参加出来るように調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内外のGH連絡協議会、同圏域内の連絡会への参加あり、研修を通して共に学んだり情報交換を行っている。当施設は開設2年であるが母体事業所は15年のネットワーク作りの実績があるため、他ユニットとの連携にてサービス向上に努めて行きたい。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず訪問し面談を行っている。本人や家族から要望や不安な事、又これまでの生活の様子を聞く他、担当ケアマネさんからの情報提供を職員間で共有し、入居後の環境変化によるダメージの軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談にてこれまでの経緯やご苦労等を聞きながら現在困っている事、不安な事等も聞き職員間で共有している。入居後は受診時や面会時、又、必要時の情報提供を行い、毎月の連絡帳を活用する等して関係作りを行っている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、1人の人として、生活の知恵や生き方について教えて頂く事も多く、その事を常に忘れずに接するように心掛けている。普段の生活の中で一緒に洗濯物をたたんだり食事をしたりお茶を飲みながら会話をしたりごく普通の暮らしを心掛け、男性職員を孫の様に可愛がって下さる利用者もおり、家族のような雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の連絡帳(必ず施設での様子が分かる写真を同封)の交換や受診の報告、必要時の電話での情報提供にて離れていても様子が分かるように努めている。又、行事等へもお誘いし一緒に楽しんで頂いたり実際に職員の対応を見てもらう事で、共にケアに関わる機会を持って貰えるようにしている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの暮らしぶりや人間関係について、家族や担当ケアマネさんから情報を収集し職員で共有している。外出・外泊援助やお祭り見学、お花見、民族芸能鑑賞等々、家族や地域の方に協力を貰いながら可能な限り関係性が途切れないよう支援している。	地域の多くの方が集まる伝統行事である白岩燈火祭には誘い合って皆で出かけている。県指定無形民俗文化財である「白岩ささら」は事業所の駐車場に来て踊ってくれるとのこと。敬老会等の事業所の行事には、家族はもちろんのこと、地域の関係者等に出来るだけ多く参加してもらうよう工夫しており、昼食を提供し一緒に過ごす事例を確認できた。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者1人1人の性格や人との関わり方を観察し、何かあれば職員間で情報共有しながらトラブルにならないように考慮して支援している。価値観や考え方の違う1人の人であることを忘れずに1人の時間も大事にしつつ共同生活の良さも感じて頂けるよう支援している。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も切れ目無くスムーズにサービス利用が出来るよう関係機関と連携し必要に応じて情報の提供や相談の支援を行っている。又、年賀状や手紙のやりとりを通して縁のあった方達との繋がりを大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者1人1人に担当介護員がおり、計画作成担当者とも協力してアセスメント時などに本人への聞き取りを行っている。又、普段から本人の思いを汲み取れるような会話を心掛けている。職員から見た問題ではなく本人にとってどうなのか考える視点を持てるように計画作成者は助言している。	利用者の言動のきっかけは何だろうか、思いを洞察し、深く掘り下げて観察する。傾聴し、寄り添った支援をすることで、困難な場合こそ、本人本位に検討することの大切さをいくつかの事例をとおして紹介してくれ、改善を怠らない専門性の高さを感じた。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、担当ケアマネージャーからこれまでの暮らしや思い出のエピソード、入居への経過、その中での本人・家族や関係者の思いを聞き、得た情報を職員間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ユニット会議や介護計画作成のアセスメント、日常の状態観察や会話から、身体状況・健康状態も含め現状の把握や情報共有に努めている。又、介護者から見た自立か否か等の課題だけではなく、本人の視点も大事にアセスメントするよう努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の言葉、アセスメント、関わりの中での気づき、家族面会時の家族との情報交換や家族意見書等から集まった情報を合わせ、本人にとっての課題や本人が必要としている支援について検討し計画作成している。	「もしかして、〇〇が大好きなのかも知れない」等の日頃の観察からの気づきを、本人が望む生活を提供するための工夫やアイデアにつなげている。家族と情報交換をしながら少しずつ実践を重ねることで、本人が望む支援につなげていった事例を紹介していただいた。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には本人の様子や介護計画の実施状況を記録している他、職員間の連絡ノートを活用して情報の共有を図り、ケアの評価や振り返り、今後の課題を導く為に活用している。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所の周りにある資源や本人が入居前から活用していた資源、又、地域行事への参加等で活用に努め、本人が心身共に有意義で豊かな生活となるよう考慮している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所としての協力医療機関はあるが、入居前に本人や家族の希望を聞き出来るだけ希望の医療が受けられるよう援助している。又、病院の相談室や医師、薬剤師とも連携し入居者の実情を理解して頂き、柔軟な対応や協力が得られている。	歯科医院による毎月の訪問検診があり、義歯等の簡単な調整であればその場で対応してくれる。内科循環器科医院も要介護4以上であれば往診可能とのこと。オレンジカフェで近隣住民馴染みの薬剤師との関係も良好である。希望するかかりつけ医が遠方の場合、家族と協議の上、家族が付き添う場合もある。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師が勤務しており、日々の気付きや変化等を連絡ノートを活用して報告している他、看護師が不在の時間帯・夜間でも電話での相談や必要に応じて様子を見に来て貰い、早期対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はスムーズに必要な治療が受けられるよう情報の提供を行い、退院に向けては病院の相談室と連携しながら家族も含めて相談し進めている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針を定め入居前に事業所の方針を本人・家族に説明し同意を頂いている。実際に重度化が進んだ段階で、本人や家族と話し合い、意向を尊重出来るよう主治医とも連携しながら役割を担っていききたい。	「利用者の重度化及び看取り介護に関する指針」に基づき利用契約時に説明している。今まで事業所で看取った事例はない。利用契約書の「看取りの指針」にも、事業所としての看取り介護の提供について確認できる。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度職員全員が消防署による普通救命講習を受講している。利用者1人1人の状態によって、急変時の対応や異常の早期発見のポイントについては看護師からアドバイスを貰い、緊急時の連絡体制も整えている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画や災害対策マニュアルを作成し会議や社内研修で確認している。又、年2回の避難訓練は消防や近隣住民の方の協力を得て行っており、都度消防署からの指導やアドバイスを受けている。	避難訓練には2名の近隣住民が毎回参加しており、外での見守りや道路を挟んでの避難先までの誘導がその役割とのこと。地区の自主防災組織の一員として、事業所を緊急避難先として提供している。緊急連絡網により、管理者が全スタッフに電話連絡する体制にあるが、通報訓練の未経験者も一部存在する。	緊急連絡網の実際の活用方法について、機会を設け、全スタッフと再確認するよう期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の性格や考え方・価値観・行動スタイルが1人1人違うことを理解した上で接しており、必要であればユニット会議や日々のミーティングの中で対応について話し合ったり、職員が共通認識を持ってケアできるよう努めている。	入浴介助の際の対応について、本人にとって誇りやプライバシーを損ねないように入居時に聞き取り、対応を共有している。居室に入る時は必ずノックすることを厳守している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は本人の意思や自己決定を尊重する事の重要性を理解しており、本人の言葉はもちろん、言葉にならない思いも表情や行動から読み取り支援するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間やお茶の時間等、ある程度の目安となる時間は決めているが、1人1人の希望やペースに合わせた対応ができ、職員の都合を優先しないよう考慮している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望があれば普段から使用していた化粧品やスキンケア用品が使えるよう支援している。又、好みの洋服や体質(暑がりや寒がり等)について家族や本人から聞き、希望に添った支援ができるよう努めている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの物を献立に入れたり、お誕生日にはケーキでお祝いする等、季節や行事で内容を工夫する等食事を楽しくするよう考慮している。現在食事作りや後片付けを一緒に行っている利用者はいないが、今後も能力を見極めながら支援していきたい。	全スタッフが輪番で調理を担当しており、昼と夕は別のスタッフが対応している。以前はメニューに合わせ、食材を買いに出かけていたが、業者の食材配達に切り替え、冷蔵庫にある食材の状況を確認し、調理担当スタッフ各々がメニューを考え調理する方式に切り替えたとのこと。最初はスタッフの戸惑いも見られたが、今ではすっかり定着し、おいしい物を安く調達でき、効率性も向上した。お正月に抹茶を点てたり、夏はそばを食べに出かけたり、ひな祭りでのちらし寿司等々、季節感を演出する行事食が多彩である。ドライブがてらのソフトクリームは好評とのこと。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量を毎日チェックし記録、又、1人1人の好みや食べ方、咀嚼・嚥下状態と食べるペースに合わせた支援を行っている。主治医による血液検査が行われた際は必要時は食事に関するアドバイスを貰っている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力医療機関歯科医による各月に1回の往診があり、口腔内の状態や義歯の調子を診てもらい指導を受け、日常の口腔ケアに役立てている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを把握しトイレで排泄出来るよう支援しており、行動から排泄のサインを見逃さないよう援助している。現在綿パンツかりハビリパンツ使用者のみでオムツ使用者はいない。男性職員もいるため、本人の気持ちに立って羞恥心や自尊心に配慮した対応を心掛けている。	個別の水分摂取、食事、バイタル等とともに、排泄についてもチェック表を活用し、こまめに観察しており、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を把握することで、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。オムツ使用者はいない。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立には食物繊維を多く含む食材や乳製品を取り入れたり、水分補給は日々強化している。毎日のラジオ体操や軽体操、レクリエーションを支援し活動量確保も図っている。又、必要であれば看護師や主治医へ相談し指示を仰ぐようにしてる。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本の曜日は決めているが、体調や希望に合わせて入浴出来るよう臨機応変に支援している。又、入浴のスタイルも可能な限り本人の希望に合わせるようにしている。男性職員もいるため入所時に同性介助を希望するかどうかを聞いて対応している。	火曜と金曜の週2回、午前から午後にかけて本人の希望に沿って入浴を実施している。会社が運営する各事業所に看護師が配置されており、入浴日にはバイタルチェック結果や皮膚の状況を踏まえ相談できる体制にある。以前入浴を拒否される方がおり、脱衣所でお茶が飲めるよう工夫したり、壁の模様替えをしたり、音楽を流したりと様々な試行錯誤をし、結果、入浴してくれるようになった事例を確認した。無理強いはいらないという事業所の方針と専門性の高さが感じられる。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や体調・状況に合わせて起床・就寝・休息ができるよう支援している。部屋の温度や寝具の好み等なるべく希望に添うようにし、日中の活動時間を確保して夜は良く眠れるように支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	まず入居時にその方の疾患や内服薬の確認を行い職員間で共有し、一般状態や副作用の症状があるか等について注意深く観察、定期受診時等に主治医に報告・相談行っている。認知症の為不調をうまく伝えられない方もいる事を職員は意識して観察している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション活動の予定表を作成し毎日援助している他、お花見や紅葉、田沢湖、お祭り、民謡ショー、外食等の外出行事も企画し提供しており気分転換を図っている。活動も必ず全員同じ事を行って貰うのではなく、その方にとっての楽しみや生活の張りとは何かを考慮し能力にも配慮して対応している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	上記のような外出支援の他散歩や買い物等の日常的な外出支援も利用者やご家族の希望を取り入れながら行っている。又、希望があればご家族と一緒に外出できるよう支援している。地域の方々と出かけるような機会は少ないが、敬老会は別会場を借りて地域の方々も招待しているため会場まで一緒にバスで出かけている。	天候を見ながら、出来る限り散歩するよう心掛けています。レクリエーション計画に基づき、芸能フェスティバル、わらび座劇場鑑賞等々毎月外出を楽しめるよう配慮しており、家族から「よく遠方へ連れ出してくれ、楽しみを作ってくれています。」と好評である。事業所主催の温泉での敬老会には遠方の家族も参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の希望を確認し必要時は自分のお金を使用出来るように支援しているが、現利用者に関しては自己管理が難しい方々であるため、希望者の方のお金は普段は事務所預りとし、買い物等で使用機会がある際に自分で支払いが出来るように見守り、支援している。その他は預り金制をとっており、その中から支払いを援助している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は利用者の手の届く所に有り、希望があればいつでも使用できるよう番号を押す等援助していきたい。(現在まで希望者はおらず)手紙やはがき等も希望時は支援していきたい。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は自動換気システムにて随時換気がされている他、リビング・廊下・浴室・トイレ等の温度差を極力少なくできるよう努めている。音や光等利用者の視点に立った環境作りを心掛け、又、リビングや廊下、居室のドアは季節感のある装飾や掲示物で四季の移ろいを演出するように工夫している。	食堂とリビングを入れ替えることで、リビングスペースが広がった結果、皆さんがソファでくつろぐにはソファが足りず、急遽応接室のソファをリビングに持ち込み、全員が座れるよう配慮したとのこと。ソファに座って楽しむテレビでの相撲観戦が人気。装飾を工夫しスッキリとしたおしゃれな空間を演出している。冬場の乾燥対策のため共用空間のあちこちに加湿器が配置されている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル、椅子のレイアウトを工夫したり、外が見える場所、テレビが観やすい場所等好きな位置で馴染みの方と思い思いに過ごせるように支援している。居室にテレビを設置できるようになっており、1人で見たい方は居室でゆっくり過ごす事も出来ている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年愛用した品物や思い出の物、家族との写真やぬいぐるみ、趣味の品物等、本人が安心して過ごせるように家族とも相談して持ち込んで頂いている。	各居室にベッドとエアコンが設置されている。居室にテレビを持ち込んでいる利用者が2人おり、自分の時間として部屋でテレビを観て楽しんでいるとのこと。大き目の家族の写真が各居室に飾られていた。以前書道をたしなんでいた方の居室の2幅の条幅が印象的である。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ・浴室・洗面所には自分の力を使いながら安全に移動や動作が行えるよう手摺り等が設置されている。トイレや居室前には目線に合わせて名前や分かりやすい表示を付けたり、目印を付ける等の支援を行っている。		